

算命学中庸

【初年】 2 3 回目

2 3 回目の授業はこのページからです。

授業科目 【少子化について】

【初年】 2 3 回目【少子化について】 01

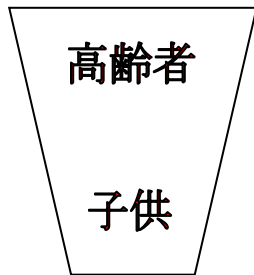
小児化は長いこと問題になっていますが、一組の夫婦から生れる子供の数が、平均で 1.42 人とのことです。

一組の夫婦 ⇒ 1.42 人（子供）〔2018 年〕

一人っ子が多いですね。二人生めば多いほうです。

このまま小児化が続いていくと、年金も崩壊の危機にさらされるでしょう。

高齢者のほうが多くなると、**宿命（1）A** のように、逆ピラミッドのような年代に入っていきます。

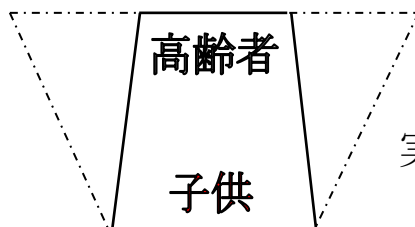


宿命（1）A

子供のほうが少なく、高齢者のほうが多い、状況になってしまうと、大変な事態になります。

少子化の原因については、働く女性が増えたからとか、子供を育てる保育施設が少ないとか、収入に問題があるとか、さまざまに提言されているようですが、少子化になるのは、なぜだとお考えになりますか……。

宿命（1）B



逆ピラミッドの破線の形ではなくて、実線の形であれば問題ないでしょう。

つまり、実線の形のように、子供の数よりも、高齢者の数が少なければ、なんの問題もないと考えられます。

（高齢者は要らないという話しではありませんよ）

戦前までは、子供の数が5人も7人いても、当たり前という時代もあったわけです。

多数の子供がいても当たり前だとして、その子供たちがまた、5人も7人も子供を生んだらどうなります——？

その子供たちが、またまた5人も7人も子供を生み続けたら、ねずみ算ではないですけど、日本の人口が爆発的に増えてしまって、逆に、大変な危機になるはずですよ。

日本の食料自給率だと大変な事態になるでしょう。

戦前までが、明治維新以後の富国強兵政策で、生めよ・増やせよと生みすぎたのです。(終戦は昭和20年8月15日)

子育ての環境が良くないから、小児化になっている。と指摘している専門家もいますが、昔と現在と比較したらどちらのほうか、子育ての環境はよいのでしょうか？

いまのほうか、よいと思いませんか——？

昔は、もっと悪い環境なのに、何人も子供を産んで育てたわけです。ということは、子育ての環境が良くないという、そんなところに小児化の原因はないはずですよ。

教育環境をより良く整えるためであれば大変結構な話ですけど。

算命学は、一つの家系には、運勢の総量というものがあ
りまして、“それは有限である”としています。

〔Aさんの家系全体での総量はこれだけですよ〕と、運勢
の枠わくが決まっている。と考えています。

❖ 一つの家系における運勢の総量は有限である

これは現実的に考えても、一つの家で養える家族の人数
には限界がありますよね。無限ではないですよ。

どんな家でも、人間を何人生み出せるかという、運勢の
チカラも有限なのです。

親の代とか、おじいさんの代とかで、子供を作りすぎた
ら、家系全体のなかには、もう子供を生み出すチカラが
あんまり残っていないわけです。有限なのです。

運勢は目に見えないので、無限にあるような印象を受け
やすいと思いますが、決してこれも無限ではないのです。
家系の運勢も有限です。

日本は小さな国土です。どんどん人口が増えれば、輸入
に頼っている、日本の食料事情を打開しないと大変です。

世界のなかには、食料に困窮して、飢えに苦しんでいる人びとが存在しています。

食料自給率が低い日本で、維新後の富国強兵政策のように、人口が増えればどうなります。

トイレットペーパーが無い、マスクが無い、それどころではないでしょう。

⇒ 昭和の始めは、日本の人口が7,000万人だったのです。

昭和の始め(昭11) ⇒ 約7,000万人

このまま少子化が続けば——日本の人口は6,000万人になるそうです。 100年後 ⇒ 6,000万人

2018年(平30)の日本総人口は、1億2千6百50万人です。

1872(明5)3,480万人、1936(昭11)6,925万人です。

(明5)から(昭11)までの64年間で倍以上に増えています。

端的に言えば、1871(明4)11月12日から1873(明6)9月13日

まで、岩倉使節団がアメリカ合衆国、ヨーロッパ諸国を歴訪した

ことによって、海外の列強を目の^まあたりにしたわけです。

それは明治政府の富国強兵策(人口=兵力)の始まりでしょう。

1936 年（昭 11）6,925 万人ですから、2018 年（平 30）までの人口増加は 82 年間で倍には達していません。

これは 1945 年（昭 20）8 月 15 日の終戦（敗戦）によって、富国強兵策の終焉^{しゅうえん}を迎えたことによるものでしょう。

しかし、82 年間で倍近くに達しています。

⇒ そうしますと、一組のご夫婦に、子供が 2 人産まれたらどうでしょう。どの夫婦にも子供を 2 人ずつ産まれたら人口は全く変わらないわけです。

〔たとえば〕 6,000 万人が 1 億 2 千万人になるためには、4 人は産まないといけません。

人口を倍にするには、どの夫婦も 4 人ずつ生む必要がありますけど、その勢いで増え続けたら大変な事になってしまいます。

これは算命学的に考えたときに、民族的にも、家系のなかにも、子供を生み出す運勢はもう限界に来ているわけです。どのくらい減少するのか——100 年後の 6,000 万人まで減少するのかどうかわかりませんが、ある程度は減る必要のある時代に入ったと考えているのです。

明治の始めは、およそ 3,500 万人でした。

明治の始め ⇒ 3,500 万人

それが、昭和の始めには 7,000 万人に増えています。

2018 年(平 30)の日本総人口は、1 億 2 千 6 百 50 万人です。

明治初頭と比較すると、3 倍か 3.5 倍にも増えています。

これはちょっと増加が急激過ぎたといえるのではないで
しょうか。

これから日本の人口は、確実に少しずつ減り続けます。

100 年後に 6,000 万人に減少するかどうかまではわかりま
せんが、1 億 2 千 6 百 50 万人よりは減少するはずで
す。

そうしますと、少子化が問題になっているわけですが、
何十年か経って、地球の温暖化が進めば、必ず食糧危機
が来るといわれています。もし、食糧危機が来たとすれ
ば、人口は少ないほうがよいのではありませんか――。

1 億 2 千万人、いやもっと増えて、100 年後には日本人が
2 億人もいたら、そのときにやって来る食糧危機を乗り
超えられないかも知れないわけですよ。

人口が少ない国のほうが、地球温暖化による食糧危機を乗り越えられるかも……知れないですよ。

すでにその兆候は現れているとおもいませんか——？

異常気象によって、干ばつに襲われている国は食料危機であり、水不足に悩まされている国もあるわけです。

わたしたちは幸運にも、水道によって、水の恩恵をうけています。

「水がある」「水がでる」それが当たり前のようにです。

世界に目を向ければ“あたりまえ”とはいえません。

水の恩恵を得られることに感謝の心が必要でしょう。

日本でも過去においては、水争いが何度となく起きています。

現在「リニア新幹線」による水問題が静岡県によって、提起されています。

⇒ 実際の鑑定するときには：

〔たとえば〕病気で倒れたという場合に、病気で倒れて良かった。という占いになることがあります。

「いまの時期に病気で倒れて、ゆっくり休んで、悪いところを——いま、治癒しておいたほうがよいですよ」
そういう時期があります。

「病気で倒れた」そのところだけを見ると、これは不幸なことだ、そのように見えるかも知れません。でも——その人がそこで病気にならなかつたら、もっと頑張ってしまったら、命を失うかも知れないです。

第一次安倍内閣のとき、安倍総理が病気で倒れて辞職しました。
あのとき、安倍晋三さんが辞職したことはよかったのです。

〔あのときはですよ〕それとは別に……宿命の地支は政治家としての要点になります。

このような考え方があることを、知っておいていただければとおもいます。

【初年】 23回目【少子化について】 終わります

つぎの授業 ⇒ 【初年】 24回目【二十四節気七十二候】